

大統領の理髪師

2005(平成17)年4月3日鑑賞(心齋橋パラダイスクエア)



監督・脚本=イム・チャンサン/出演=ソン・ガンホ/ムン・ソリ/リュ・スンス/イ・ジェウン/チョ・ヨンジン/ソン・ビョンホ/パク・ヨンス (アルパトロス・フィルム配給/2004年韓国映画/116分)

……私も韓国旅行の際に見学した韓国の大統領府(青瓦台)は、孝子洞(ヒョジャ町)にある。そのお膝元で営業していたため大統領の理髪師に選ばれた(?)主人公は、権力のトップである大統領の日常に接することに……。しかし李承晩大統領から朴正熙大統領へと変化した1960年代は「圧政の時代」。果たして主人公は大統領府で何を見るのだろうか。笑いを誘う庶民的ユーモアと政治的ポイズンを含むブラックユーモアを混在させながら、善良な一市民の目からみた韓国の政治の根幹を見すえた骨太な作品。拷問によって歩けなくなったボクが歩けた時は、思わず涙も……。

ストーリーは息子の語りから

この映画は、真面目だが政治には全く無関心だった主人公ソン・ハンモ(ソン・ガンホ)が、「大統領の理髪師」に選ばれたために否応なく襲ってくる数々の出来事を、生まれてくる息子の声によって語らせるというスタイルをとっている。

それによってソン・ハンモの行動が客観的に観客の目に示されるため、その喜劇とも悲劇とも見分けがつかないような庶民の喜びと悲しみが見事に浮かびあがってくる。

この準主役ともいべき少年(イ・ジェウン)が生まれたのは、1960年の4・19革命の日。その息子の名は「ソン・ナガン」。この名付けにまつわる面白い話もあるから、それは映画でじっくりと……。

第三共和政の誕生と激動の時代

ナガンが生まれた翌年の1961年、朴正熙は軍事クーデターを起こし4・19革命後に樹立された文民政権を倒した。そして1963年に大統領に当選して第三共和政を樹立した。その後、1965年のベトナム派兵、1968年の1・21ゲリラ事件と対立の時代、圧政の時代が続き、北朝鮮スパイがもたらしたマルクス病騒動（下痢騒動）へ……。これによって10歳にもならない少年ナガンが一人前の大人と同じ扱いで逮捕され、拷問まで……。その拷問シーンはブラックユーモアたっぷりだが、心の底から軍事政権に対する怒りの思いが……。

ソン・ガンホの多様性

俳優はどんな役でも演じることができるもの、と言ってしまえばそれだけだが、現実にはそれはなかなか難しいはず。このソン・ガンホという俳優は1967年生まれだからまだ40歳前だが、大きな顔（偉そうな顔という意味ではなく、物理的に大きい顔という意味）で短い足（失礼……？）。したがって最近の韓流ブームの中で次々と誕生しているハンサム系俳優でないことは明らか。

しかし彼の「存在感」は、『シュリ』（99年）、『JSA』（00年）、『殺人の追憶』（03年）を観れば明らか。この3本の映画に共通するのはいずれもシリアスな役だということだが、この『大統領の理髪師』ではコメディな味がいっぱい。本人はいたって真面目にやっているのだが、それがどうみても自然に笑いを誘うからオモシロイ……？

もっともこの映画はそんな面白いことばかりを描いたものではなく、すごくシリアスな内容を含んでいるからなおさらオモシロイ……。

理髪店の妻は『オアシス』のあの……

『オアシス』（02年）でアッと驚く脳性麻痺の女性を演じてベネチア国際映画祭新人俳優賞などを獲得したのがムン・ソリ。この映画ではそのムン・ソリがソン・ハンモの妻キム・ミンジャとなり、出番は多くないものの要所要所で重要な役柄を演じている。

理髪店のシーンでまず登場するのは、スカートをはいて仕事中のキム・ミンジャのお尻から。仕事をしているはずのソン・ハンモの目線はややもすれば客の頭を離れ、ミンジャのお尻に……。

よほど発情していたのか(?)客を帰らせた後、ソン・ハンモはまっ昼間から店を閉め、カーテンを下ろし……？

ムン・ソリの名演技

子供が生まれた後の家族3人の生活は、貧しいなりに平和なものだったが、夫が大統領の理髪師に選抜されたことによって必然的にミンジャの境遇にも大変化が……。大統領府の昼食会への参加も大変だったが、一人息子のナガンが逮捕された後はそりゃ半狂乱状態……。

そしてやっと帰ってきたナガンを胸に抱いたものの、自分の足で立てないことを知った時のショックと最後に奇跡が起こった時の喜び。これらの節目節目の重要な役柄を、ムン・ソリがさすがベネチア国際映画祭新人俳優賞受賞女優と思わせる名演技でまとめている。

主人公の夫と息子のナガンの名演技と合わせ、家族三人三様の名演技がこの映画を感動作にしている大きな要因だ。

北による大統領府襲撃事件は現実の話

朝鮮戦争は1953年に終結したが、以降も南北対立は続き、1968年には孝子洞(ヒョジャ町)にある大統領府(青瓦台)が北朝鮮の武装ゲリラによって襲撃されかかるといふ事件が発生した。これが1・21ゲリラ事件で1968年に発生したものの。1968年といえば日本では(新)都市計画法が制定、翌1969年には都市再開発法が制定され、近代都市法が確立した時代。そんな時に韓国ではこんな生々しい事件が発生していたわけだ。

そんな坂和流コメントを、実は私は『SILMIDO (シルミド)』(03年)を観た時に書いているので、是非それを参照してもらいたい(『シネマルーム4』202頁参照)。

そしてこの『SILMIDO』を観た時は、心の底から戦慄を覚え鳥肌がたつよう

な感覚だったことをよく覚えている。それはあの『シュリ』(99年)で、北朝鮮の部隊が血の滲むような訓練を経て、韓国に乗り込むシーンと同じような緊張感をもったものだった。しかし、その同じ1・21ゲリラ事件をこの『大統領の理髪師』はかなりユーモアをまじえて描いている。悪くいえば、ちょっとおふざけがすぎるかも……？

それは何と、大統領府へ突入しようとする北のゲリラ部隊が突然下痢症状に襲われるというもの……？

警護室長と中央情報部長との対立もホントの話

チャン・ヒョクス(ソン・ビョンホ)は警護室長だから常に朴大統領と行動をともにしており、ソン・ハンモが大統領の散髪をしている間もずっと一緒。要するに側近中の側近で、側近No1の立場。他方、中央情報部長のパク・ジョンマン(パク・ヨンス)は、朴大統領が開始した第三共和政の下ですべての情報を集約する部局のポストだから、これも重要ポスト。前述のマルクス病騒動=下痢騒動の際は、このパク・ジョンマンが調査のトップに立ち、10カ月間にわたる捜査結果を発表した。それによると、北朝鮮からのスパイと接触したのは、ヒョジャ町を占拠した花札スパイ団。これによってソン・ハンモの友人たちが逮捕され、拷問の挙げ句の自白調書によって死刑判決を受けることに。そして息子のナガンまで逮捕され拷問を受けたわけだ。ところが、コトあるごとに、チャン・ヒョクスとパク・ジョンマンは対立。大統領の理髪師としてくつろいだ場所にもたまたま同席するソン・ハンモは、そんな対立を間近に……。

そして両雄(?)並び立たず……。チャン・ヒョクスを重用した朴大統領に対する憤懣の挙げ句、パク・ジョンマンはピストルをもって朴大統領を射殺。これが1979年10月26日午後7時40分、青瓦台近くの宴会場で現実に発生した朴正熙大統領射殺事件だ。

ナガンの足は……？

マルクス病騒動の捜査結果を発表したパク・ジョンマンに対して、「少年を拷問するのが情報部の仕事か」と嘲笑するチャン・ヒョクス。こんなチャン・ヒョ

クスとパク・ジョンマンの対立のおかげもあって、ソン・ハンモの息子ナガンは手足を縛られたまま理髪店の前に放り出された。大喜びするソン・ハンモと妻のキム・ミンジャ。しかし長期にわたる拷問の結果、ナガンの足には力が入らず、歩くことも2本の足で立ち上がることもできなかった。こんなひどいことを誰が……？

大統領府のあるヒョジャ町に住んでいるだけで、なぜこんなことになるのか？ これはヒョジャ町のソン・ハンモの友人たちが、「花札スパイ団」とでっちあげられたのと同じで、まさに理不尽そのもの。

漢方医めぐりの旅は……？

しかし市民にすぎないソン・ハンモはこれに対して何の抗議もすることができず、結局は泣き寝入り。ソン・ハンモができることは、ナガンを負ってナガンの足を治してくれる漢方医を訪ね歩くことだけだった。そんなソン・ハンモとナガンが最後に訪れたのが、山奥に住むある漢方医。1時間じっとナガンの手をとって診ていたこの漢方医は、ナガンの名前の由来から、「龍になった大ヘビがこの子に乗り移っている」と変な発言を。そして「数年後に龍が死んだら、葬儀が行われ菊の輿が運ばれる。龍の目を削り、菊の茶に入れて飲ませなさい」とも。訳がわからないソン・ハンモは、翌日「ただの疫病神だ。龍の目を削れ？ あのクソジジイ」と捨てゼリフをはきながらこの山奥を後にした。しかし実は……？

ラストシーンには思わず涙が……

その後ナガンは松葉杖をつきながら成長した。1979年に朴大統領が射殺され、その国葬が行われた時、ナガンは19歳。立派な青年に成長していた。国葬の前日、大統領の葬儀に参列してお別れを告げたソン・ハンモは、祭壇に飾られた大きな朴大統領の写真の目玉を削り取って……。あとは大体想像がつくというもの。したがってその後は、どんな風に感動的なシーンが登場してくるのかなと思って観ていると……？ 予想どおりとはいえ、ラストシーンでは思わず大粒の涙が……。こういう韓流映画は大歓迎。是非、多くの人に観てもらいたい映画だ。

2005(平成17)年4月5日記